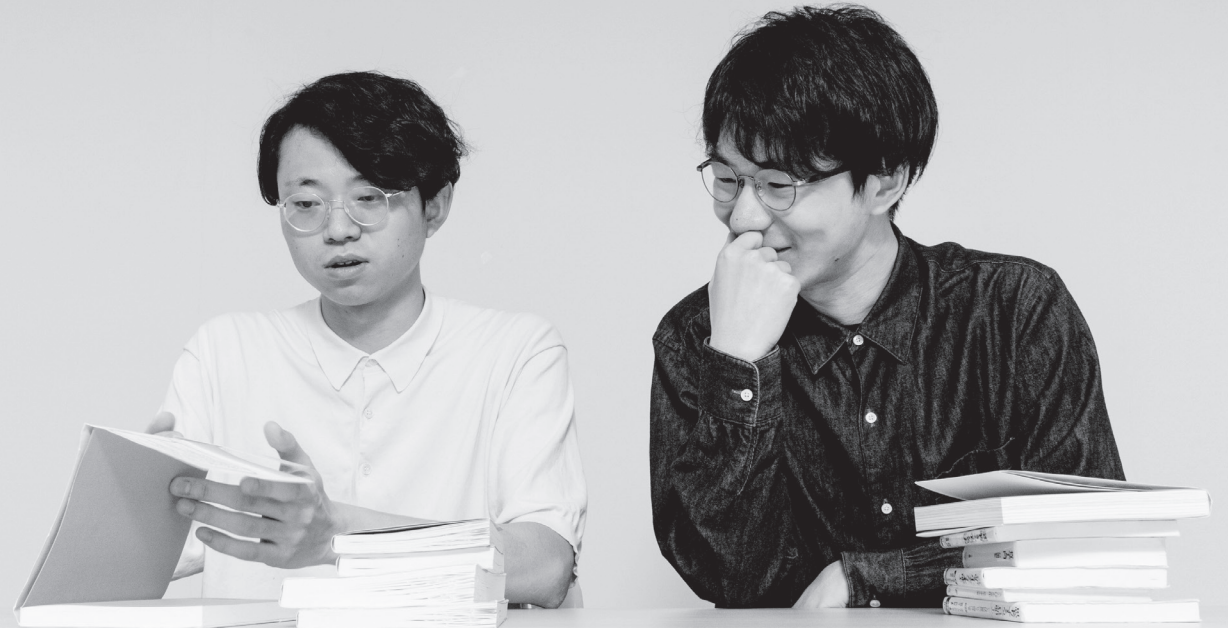


# 対談 言葉とは何か？を教えてください

水野太貴  
(ゆる言語学ラジオ)

ことラボ りよ  
(ことラボ)



みずの だいき 1995年、愛知県生まれ、名古屋大学文学部卒業。専攻は言語学。YouTubeチャンネル、Podcast「ゆる言語学ラジオ」で話し手を務める。出版社に勤務する編集者でもある。https://www.youtube.com/@yurugengo

ことラボ りよ 1995年生まれ。YouTubeチャンネル「ことラボ」を運営。平日は仕事でプログラミング言語と格闘する傍ら、休日に自然言語と戯れるのが趣味。https://www.youtube.com/@koto labo

## 言語学本の現在

りよ 言語学や言葉にまつわる一般書が増えてきているような気がしませんか？

水野 『フリースタイル言語学』(大和書房)の川原繁人先生も続々、新刊を出していますね。『音声学者、娘とことばの不思議に飛び込む』プリチュウワからカピチュウ、おつけーぐるぐるまで(朝日出版社)、『なぜ、おかしな名前はパピペペが多いのか？言語学者、小学生の質問に本気で答える』(デイスカヴァー・トゥエンティワン)、一〇月には『言語学的ラップの世界』(東京書籍/本誌四三〇〜四九ページ参照)と続いている。

りよ 新書にもおもしろそうな本がありますね。水野 たしかに新書がこのジャンルを引っ張っ

ている印象がありますね。『言語の本質 ことばはどう生まれ、進化したか』(今井むつみ・秋田喜美/中公新書/本誌三六〇〜四一ページ参照)や『日本語の発音はどう変わってきたか「てふてふ」から「ちようちよう」へ、音声史の旅』(釘貫亨/中公新書/本誌五六〇〜五九ページ参照)も人気があると聞いています。

りよ 新書で思い浮かんだのが『悪い言語哲学入門』(和泉悠/ちくま新書)です。言語哲学なんてニツチな話題じゃないですか。

水野 そうそう、同じ著者の『悪口ってなんだろう』(ちくまプリマー新書)も出ましたね。新書ではないですが、言語哲学というタイトルのストリアの哲学者 関連も『はじめてのウィトゲンシュタイン』(古田徹也/NHKブックス)などが読まれている印象があります。

## 一冊目 その場所、場所の文化と言葉

りよ 一冊目は『ことばと文化』(鈴木孝夫/岩波新書)です。王道という感じですね。最初に読んだのは高校生のときでした。

水野 りよさんは『ことばと文化』でおもしろさに目覚めたと言っていましたね。

りよ 言葉という自分が普段、使っているもののおもしろさをメタ認知するというか、こういう隠れたルールなど、気づいていなかったことに気づくのがすごく楽しくて。

水野 この本は専門用語もあまり出てこないし。りよ 高校生でも読めると思います。日本語では「水を飲む」「スープを飲む」「薬を飲む」と言いますが、英語では「drink water」「eat soup」「take medicine」と違う動詞になる。「drink」には喉に流し込む、それも飲食物を、というニュアンスがあるので、スープや薬には使わないのだと。

水野 鈴木先生は多作だし、根強いファンが多い。『言語学者、鈴木孝夫が我らに遺せしこと』(松本輝夫/富山房インターナショナル)という鈴木先生についての本も出ています。

りよ 知りませんでした。読んでみます。

水野 僕が高校時代に読んで言語学への興味のきっかけになったのは『言語学が好きになる本』(町田健/研究社)でした。今回の五冊には入っていないのですが。

僕の一冊目です。

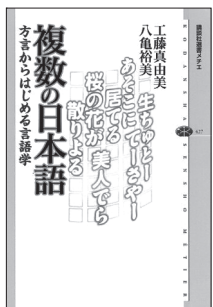
『複数の日本語方言

りよ  
セレクト



R(りよ)/言葉の隠れたルールなど、知らなかったことに気づくのがすごく楽しい。

水野  
セレクト



M(水野)/方言はアクセントが問題にされるが、文法が違っていることも多い。